BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

CSV REPORT 2021

CSVレポート2021
［ダイジェスト版］

コカ･コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

Paint it RED!
未来を塗りかえろ。

Mission
すべての人にハッピーな
ひとときをお届けし、価値を創造します

Vision
- すべてのお客さまから選ばれるパートナーであり続けます
- 持続可能な成長により、市場で勝ちます
- 常に学びながら成長します
- コカ・コーラに誇りを持ち、誰もが働きたいと思う職場をつくります

Values
- 学ぶ向上心を忘れません
- 変化を恐れず機敏に行動します
- 結果を見据え最後までやりきります
- 誠実と信頼に基づいた気高い志で行動します

CONTENTS

03 トップメッセージ
05 価値創造サイクル
07 日本のコカ・コーラシステムのサスティナビリティーフレームワーク
09 CCBJHグループのコミットメントと生み出す価値

CSV HIGHLIGHTS 2021
11 新型コロナウイルス感染症への対応
13 広島工場災害からの復興
15 「廃棄物ゼロ社会」を目指して
17 プラットフォーム 「多様性の尊重」への取り組み
19 プラットフォーム 「地域社会」への取り組み
21 プラットフォーム 「資源」への取り組み
25 CO_2排出実績および算定方法
— グループ体制図/外部評価

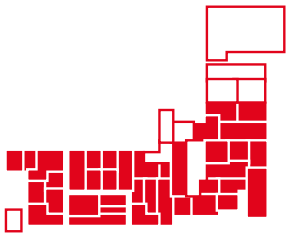
●用語について

CCBJHグループ(私たち)はコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)および連結子会社7社(コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社)を指します。CCBJIはコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)を指します。CCBJIグループはコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)およびコカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ(株)が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。顧客はお客さま(主に消費者を指す)およびお得意さま(主にお取引先を指す)を含みます。

※コカ・コーラ カスタマー マーケティング(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング(株)、FVジャパン(株)、(株)カディアック、コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネスサービス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット(株)

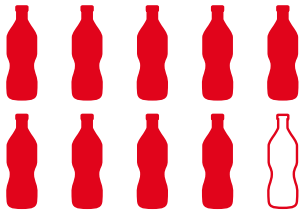
会社概要（2021年2月1日現在）

名　　称	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.
設　　立	1960年（昭和35年）12月20日 ※2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社に商号変更
決 算 期	12月31日
資 本 金	15,232百万円
代 表 者	代表取締役社長　カリン・ドラガン
上場取引所	株式会社東京証券取引所（市場第一部）



営業地域

1都2府35県

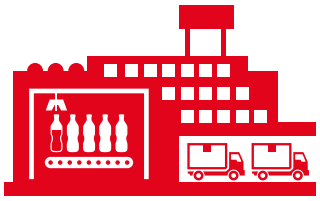


販売数量

国内コカ・コーラシステムの
約90%

エリア内の人口

約1億1,200万人
（5,100万世帯）



製造拠点数

17工場

営業拠点数

約330カ所
（ディストリビューションセンター含む）

取扱店舗

約25万軒

自動販売機

約70万台

年間販売数量

約5億ケース

車両台数

約14,500台

これまでのやり方は選択肢にない。変化を恐れずに前進し、持続的成長を。

新型コロナウイルス感染症により被害を受けられたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。また、最前線で対応されている医療従事者の方々をはじめ、関係者のみなさまに深く敬意を表し、感謝申し上げます。

すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造するために。

全世界が未曽有のコロナショックに見舞われ、経済活動や社会生活は一変しています。劇的に変化する環境のなかで、企業は収益を守りつつ、サービスを提供し続けるために変化を余儀なくされています。国内飲料業界も同様で、在宅勤務の浸透や外出自粛による影響からコンビニエンスストア、自動販売機などでの需要が減少し、厳しい状況が続いています。そのような中で、コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングスグループ(CCBJHグループ)は、柔軟に在宅勤務体制へとシフトするとともに、厳格な衛生基準を取り入れることで、働き方を迅速に適応させ、消費者のみなさま、お得意さま、社員およびコミュニティの安全の確保と、飲料寄贈など地域社会への継続的なサポートを最優先に活動しています。私たちのミッションは「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造すること」です。これからも、日常生活に欠かせない安全で信頼できる製品やサービスの提供に努めてまいります。

さらなる成長に向けて変革のアクセルは緩めない。

CCBJHグループは、ビジネスの成長と社会の持続性をひとつの課題として捉える共創価値(CSV:Creating Shared Value)を経営の根幹としています。

ミッションの実現に向け、CSVの活動を継続していくためには企業体力の向上が鍵であり、2020年は、厳しい環境下「これまでのやり方は選択肢にない」との強い意志を持って変革を加速させました。中でも、より機敏で柔軟な供給インフラ構築に注力し、2019年より投資を進めていた製造ライン全7本が稼働したことで、需要が増えている無菌充填製品の製造能力が20%増加しました。2021年2月には、最新の大規模自動物流センター(埼玉メガDC)が稼働し、物流ネットワークの最適化が着々と進んでいます。埼玉メガDCの稼働を今年中に加速することが、今後の効率化とコスト削減に重要な役割を果たします。加えて、2018年の西日本豪雨被害により移転し、生まれ変わった新・広島工場は、2020年6月より稼働し、10月には、ステークホルダーのみなさまとの大切なコミュニケーションの場となる見学施設も完成しています。

社会が抱える「重点課題」の解決に向けて進捗は順調。

国連が提唱している「SDGs(持続可能な開発目標)」の目標年まで、残り10年を切ったいま、E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)関連の活動は、より重要性を増しています。日本のコカ・コーラシステムは、SDGsをふまえ「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の3つをサスティナビリティーのプラットフォームとし、その中で優先すべき9つの重点課題を特定しています。これらの課題解決に向けてCCBJHグループは独自の非財務目標「CSV Goals」を策定し、具体的な取り組みを進めています。

「多様性の尊重」の領域では、2021年1月に、当初目標としていた女性管理職比率6%を前倒しで達成し、2030年までに女性管理職比率20%という目標に更新しました。

「資源」の領域では、ザ コカ・コーラカンパニーが掲げるグローバルビジョン「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」に基づき、2018年1月に日本のコカ・コーラシステムが策定した「容器の2030年ビジョン」(2019年7月に更新)の目標達成を目指して、「設計」「回収」「パートナー」の3本柱で取り組みを進めています。進捗は順調で、2020年のPETボトル容器のリサイクルPET樹脂使用率は28%(前年比7ポイント増)となりました。2020年3月には100%リサイクルPETボトルを使用した「い・ろ・は・す 天然水」の販売、4月には「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」のオンライン販売を開始し、石油から新規製造されるプラスチック量の大幅な削減を実現しています。

「地域社会」の領域では、地域とのパートナーシップという財産を活用し「多様性の尊重」「資源」の優先課題解決を支え、健やかな社会づくりの一助を担います。

持続的成長への好循環創出には ステークホルダーとの 協働が不可欠。

現代は社会課題が複雑化し、さらには、新型コロナウイルス感染症という未知なる敵が加わったことで、不透明性が一段と増しています。しかし、いかなる時も私たちが目指すのはミッションの実現です。ミッションを果たすことは、ハッピーなひとときをお届けするだけでなく、事業活動を通じて利益を上げながら社会に価値を提供し続け、社会全体を持続的成長の好循環サイクルに導くことを意味します。そのためには、ステークホルダーとの協働が不可欠であり、みなさまから信頼と支持をいただけるよう社会の中での役割を全うするとともに、企業グループとしてさらなる進化を目指してまいります。2021年は、世界中が待ち焦がれた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が期待されています。私たちは、オリンピックのワールドワイドパートナーであるザ コカ・コーラカンパニーや日本コカ・コーラと協力しながら、開催地ボトラーとして「すべての人にハッピーなひとときを」をお届けし、心に残る大会の成功に向けた役割を果たしてまいります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社
代表取締役社長 カリン・ドラガン

持続的成長を実現するために

CCBJHグループは、米国のザ コカ·コーラ カンパニー、日本のコカ·コーラシステム各社との連携のもと、かけがえのない水や原材料などの資源を大切に使用し、すべてのお客さまへ高品質、高付加価値の製品を提供することで、社会価値と経済価値を創出し、持続的成長の実現を目指しています。

MISSION

すべての人にハッピーな
ひとときをお届けし、
価値を創造します

INPUT

自然資本

- 価値創造の源泉となる水と原材料

知的資本

- 「コカ·コーラ」に代表される世界的ブランド群と日本で愛され続けるブランド群
- お客さまのニーズを形にするためのマーケティング力·R&D力
- 日本コカ·コーラを含む日本のコカ·コーラシステム各社、米国のザ コカ·コーラ カンパニーとのリレーション

製造資本

- 海外のコカ·コーラシステムの規模を活かした安全·安心の製品づくりを実践するための原料調達網
- 製造工場の最先端の管理システム、設備、技術力
- エリア内を網羅する自動販売機

人的資本

- 多様性を尊重したグローバル人財の活用
- 能力を最大限に発揮できる多様な働き方

社会関係資本

- CSV活動をともに推進するステークホルダーとの信頼関係
- エリアの隅々までいきわたる地域における活動

財務資本

- 資本の適切な管理·運用
- 強固な財務体質
- 株主還元

C Creating

多様性の尊重

日本のコカ·コーラシステムの
サスティナビリティーフレームワーク P.07

サスティナビリティーフレームワーク
ごとの活動報告 P.17

SV

Shared Value

地域社会　資源

CCBJHグループのさらなる成長機会は社会課題の解決にあると考えており、CSVを事業の根幹と位置付けています。CSV活動は「多様性の尊重」「地域社会」「資源」という3つのプラットフォームと9つの重点課題から成るサスティナビリティーフレームワークに基づき実行しています。

OUTCOME

経済価値
CCBJHグループの持続的な利益成長とキャッシュフローの創出

両立

社会価値
サスティナビリティーフレームワークに基づくESG活動を通じた社会的信頼の獲得

CCBJHグループのコミットメントと生み出す価値 P.09

OUTPUT

CCBJHグループが展開するブランドおよび製品

BUSINESS MODEL

CCBJHグループが展開する飲料ビジネスでは、お客さまが飲みたいときに飲みたいものを飲みたい場所で提供することが不可欠です。そのため、CCBJHグループでは米国のザ コカ·コーラカンパニーや日本コカ·コーラと連携しながら、「業界最高水準のイノベーションとオペレーションの実現」に努めています。社会・市場環境の変化に迅速に対応しながら、お客さまのニーズはもちろん、アンメットニーズ(潜在的なニーズ)にもお応えする製品やサービスを生み出しています。

日本のコカ·コーラシステム

日本のコカ·コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ·コーラと、製品の製造、販売、回収などを担う5つのボトラー社・関連会社で構成されています。

日本コカ·コーラ：企画 → 研究開発 → 原液製造

コカ·コーラ 東京研究開発センター

コカ·コーラ ボトラーズジャパン：製品製造 → 物流·輸送 → 販売 → 回収 → リサイクル

日本のコカ・コーラシステムのサスティナビリティーフレームワーク

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンは2019年、サスティナビリティーのグローバル目標達成に加えて、日本独自の課題をベースにした戦略を立案し、コカ・コーラシステム共通のアクションプランへ落とし込むことを目的に、サスティナビリティーの課題抽出と優先順位の特定のための大規模な共同調査を行いました。

その結果、「多様性の尊重(Inclusion)」「地域社会(Communities)」「資源(Resources)」の3つのプラットフォームと国内のコカ・コーラ事業全体で取り組むべき9つの重点課題が合意されました。

サスティナビリティー活動の目的

コカ・コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。

日本のコカ・コーラシステムのサスティナビリティーフレームワーク
(3つのプラットフォームと9つの重点課題)

9つの重点課題はさらに、喫緊の課題とする優先事項5項目と、現時点では優先度は比較的低いが重要かつアクションプランが必要と捉える重点事項4項目に分類しています。また、各領域における持続可能な開発目標(SDGs)との関わりを検証し、SDGsの達成も目指すことで、社会課題の解決に貢献します。

	多様性の尊重	地域社会	資源
優先事項	ジェンダー	● 全国規模で行う2つのプラットフォーム(多様性の尊重、資源)で影響力を発揮 ● 持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み	容器/PET
	年齢/世代		水
重点事項	障がい者支援		温室効果ガス排出量
	LGBTQ		再生可能エネルギー

今後、コカ・コーラシステムは、重点課題をもとに、さらに具体的なアクションを再構築していきます。

また、日本のコカ・コーラシステムの活動の進捗状況や成果は、引き続きサスティナビリティーレポートを通じて定期的に報告すると同時に、NPOや外部専門機関、有識者など第三者意見を取り入れ、時代に即した活動に取り組みます。

サスティナビリティーフレームワーク特定プロセス

1 外部調査により日本国内の社会課題を抽出

外部コンサルレポート、ISO26000、官公庁レポートなどから抽出された各種社会課題を分類し、189の課題を抽出しました。

2 189の課題を33項目に絞り込み

抽出した189の課題を、「再生可能エネルギー」「高齢化社会」などの一般的な共通項目ベースで33の項目に絞り込みました。

3 33項目をマテリアリティ・マトリックスにプロットし、重点課題15項目を特定

33項目の重要度を評価し、社会的重要性やコカ・コーラシステムのビジネスとの関連性が高い15項目を特定しました。

CSVを統括するレイモンドに聞く

Q.1 サスティナビリティーフレームワークの特定に至った経緯を教えてください。

2018年、コカ・コーラはグローバル目標として「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」を掲げ、容器の100%リサイクルなどを推進するとともに、水資源保護や女性活躍推進など、さまざまな社会課題に取り組んでいます。そこで私たち日本のコカ・コーラシステムは、グローバルな課題だけでなく日本が世界に先駆けて取り組むべき日本特有の課題にも、どのようにアプローチするかを重視しました。システム全体で対話の場を設け、グローバル目標と整合させながら、日本が抱える社会課題から優先すべきテーマを抽出し、私たちの強みをもって課題解決を目指すと同時に、「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します」という使命を果たす地域のパートナー企業として、事業の成長と社会的信頼を守るための戦略を構築することが重要だと考えました。

Q.2 サスティナビリティーフレームワークの特定において重視したことは何ですか?

注目したのは次の3つの観点です。1つ目は「日本と海外との関係性」です。あらゆる課題をグローバルと日本、2つの視点で捉える必要があると考えました。2つ目は、「現在と将来の関係性」です。現時点のことだけにフォーカスせず、将来も見据えたテーマを選ぶことも重要です。3つ目は「社会的インパクト」です。私たちの強みを活かして社会ニーズにしっかり応え、ポジティブなインパクトを与えられることを重視しました。この3つの観点から、日本独自の課題と私たちの強みを両立するテーマを特定しました。中でも容器の資源循環については、グローバルの目標よりもさらに高い日本独自の目標を設定しました。

執行役員IR & コーポレートコミュニケーション本部長
レイモンド・シェルトン

Q.3 日本のコカ・コーラシステム全体で取り組んだ理由は?

大事なのは課題の特定ではなく、課題解決のための「実践」です。日本の中でも課題やニーズは地域ごとに異なり、外部との連携も含めたエリアに応じた取り組みも必要です。それには、日本全国のコカ・コーラ関連会社や外部組織との連携が欠かせません。世界のコカ・コーラシステムの事業規模を生かし、かつ各地域のステークホルダーと接点を持つボトラー5社と日本コカ・コーラの連携が重要です。サスティナビリティーフレームワークの策定後、「多様性の尊重」「地域社会」「資源」のプラットフォームにおいて、日本のコカ・コーラシステムが一丸となった取り組みを強力に推進しています。

昨今、サスティナビリティーの重要性は一層高まっています。私たちは、今後もビジネスを通じてステークホルダーのみなさまと重要課題の解決に向けた活動を推進していきます。

4 コカ・コーラシステム内におけるインタビュー実施とアップデート

日本のコカ・コーラシステム内のマネジメントや社員のワークショップで特定された重点課題を加えて、19項目にアップデートしました。

5 3つのプラットフォームと重点課題9項目を特定

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンのマネジメントのディスカッションを経て3つのプラットフォームと9つの重点課題が合意されました。

2019年実施のワークショップ

CCBJHグループのコミットメントと生み出す価値

CCBJHグループは、自社の経済価値創出に対しては経営戦略と目標指標を、社会価値創出に対しては非財務目標「CSV Goals」を定め、持続的成長とミッションの実現にコミットしています。KPIに基づき毎年取り組みの進捗を確認しながらPDCAサイクルを回し、価値創出循環を推進しています。

CCBJHグループのコミットメント（指標とするKPI）

COMMITMENT

経済価値

経営戦略と
目標指標

- 2021年の主な目標指標

CHECK! 決算説明会資料
https://www.ccbj-holdings.com/ir/library/presentation.php

社会価値　非財務目標「CSV Goals」

製品		● 100%	主要ブランドでのノー／低カロリー製品のラインナップ
		● 300%	特定保健用食品（トクホ）および機能性表示食品の販売数量増
		● 100%	パッケージ前面でのカロリー表示およびわかりやすい栄養表示
		● 100%	コカ·コーラシステム「責任あるマーケティングポリシー」の遵守
水		● 200%	水源涵養率。工場近辺の水源、流域に注力
		● 30%	水使用量削減（2030年までに）
気候変動		● 25%	温室効果ガス削減（2030年までに）
		● 再生可能エネルギーの推進	
World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）	設計	● 50%	リサイクルPET樹脂の使用率（2022年までに）
		● 90%	リサイクルPET樹脂の使用率（2030年までに）
		● 100%	化石燃料を使わないサスティナブルPET樹脂の使用率（2030年までに）
		● 100%	リサイクル可能な容器の採用（2025年までに）
		● 35%	さらなるPETボトルの軽量化（2004年比）（2030年までに）
	回収	● 100%	販売量と同等の回収量（2030年までに）
	パートナー	● 環境保護団体や業界団体との幅広い連携（2030年までに）	
調達		● 100%	持続可能な原材料調達
人権		● 100%	CCBJHグループバリューチェーン上でのサプライヤー基本原則（Supplier Guiding Principles）の遵守
ダイバーシティ&インクルージョン		● 10%	女性管理職比率（2025年までに）
		● 20%	女性管理職比率（2030年までに）
社会		● 10%	社員のボランティア参加率
		● 100万人	コミュニティプログラム参加人数累計

記載のない限り、基準年は2015年、目標年は2025年

CHECK! CSV Goalsの詳細
https://www.ccbji.co.jp/csv/csvgoal/

生み出す価値（Outcome）

OUTCOME

経済価値

Coca-Cola BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

責任ある事業活動を推進し、収益性を確保することで持続的成長を実現すること

社会価値

消費者・お客さま

- 毎日の生活を支える飲料や、健康に関する情報発信を通じてすべての人にハッピーなひとときを提供
- 適切な飲料習慣の啓発・サポート

地球環境

- 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の推進・構築

お得意さま・サプライヤー

- ともに持続的成長を目指す建設的なリレーション
- 生産者、小売店、飲食店への長期的なサポート

社員

- ジェンダー、年齢、世代にかかわらず誇りを持って働き、学び続けられる職場環境・機会の提供

地域社会

- 地域の活性化
- 社会的課題解決への貢献

株主

- 収益性の確保やESG活動の推進による株主価値創出

TOGETHER! FOR THE FUTURE

新型コロナウイルス感染症への対応

CCBJHグループでは、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地域社会への継続的支援としてさまざまな取り組みを実施しました。コミュニティのみなさまへのサポート、新たな日常“withコロナ”に対応した製品の販売や社員がより柔軟に働けるような仕組みづくりなど、包括的な対策を行い、すべての人にハッピーでさわやかなひとときをお届けすべく、お取引先のみなさまのビジネスパートナーとして、ともに苦境を乗り越えるため、社員一丸となって安全・安心な製品の供給を継続し事業活動を行っています。

簡易フェイスシールド

1 コミュニティのみなさまへのサポート

● 製品の寄贈

2020年4月から、延べ約365カ所の医療機関や行政・自治体などを通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組む医療関係者のみなさまへ約32,000ケースの製品を無償提供しています。また、延べ48カ所のフードバンクを通じて、子ども食堂や各種福祉施設へ約14,000ケースの製品をお届けしました。今後も、コロナ禍において支援を必要としている方々への製品寄贈を継続していきます。

寄贈数
4万6,000
ケース以上
2020年12月末時点

● 感染予防具の寄贈

2020年4月、医療従事者の防護服の不足を受け、コカ・コーラレッドスパークスラグビー部が観客用に準備していた「レインコート」3,000枚を大阪市へ寄贈しました。また、コカ・コーラシステムでは、プラスチック資源循環の側面から、リサイクルPET素材を応用した「簡易フェイスシールド」を約11,000枚製造し、公的団体を通じ医療機関などへ寄贈しています。

2 “withコロナ”時代に対応した新しい営業の形

CHECK! お客さまやお得意さまへのサポートサイト
https://www.ccbji.co.jp/business/together/

2020年6月より、自動販売機の商品選択ボタンや取り出し口へ、厳しい基準を満たした抗ウイルス性・抗菌性および安全性を認証する「SIAAマーク」を取得したフィルムの貼り付けによる抗ウイルス・抗菌対策を開始しました。

CCBJIグループのFVジャパンでは、2020年7月より自社の自動販売機で「マスク販売」を開始し、非接触・非対面でマスクを購入できる環境の提供に努めています。さらに、CCBJIグループでは、一般社団法人全国清涼飲料連合会と協働し、東京都が推進している感染防止対策のひとつである「感染防止徹底宣言ステッカー」の啓発普及を目的に、東京都内の約7万台の自動販売機にステッカーを貼付する活動にも取り組んでいます。

これからも新しい営業の形を追求し、お客さまやお得意さまに向けた包括的な対策を実施していきます。

マスク販売対応型自動販売機
1都3県
22台
2020年9月時点

抗ウイルス・抗菌加工自動販売機
65,000台
2020年12月時点

東京都感染防止ステッカー貼付自動販売機
約70,000台
2020年12月時点

3 “withコロナ”時代に対応した柔軟な働き方を目指して

CCBJHグループは、新型コロナウイルス感染症の影響がもたらす社会の変化、“withコロナ“に対応した働き方を推進しています。変化と向かい合いながら、リスク対策と業務を両立し、社員の安全と持続的成長を実現するためのさまざまな施策を実施しています。

● リスク対策と業務の両立

全社員へのスマートフォン配布などITツールを積極的に導入し、“withコロナ”に対応した働き方へスムーズに移行した結果、「第38回IT賞」のIT奨励賞(「新しい生活様式」への対応領域)を受賞しました。また、テレワークやコアタイムの存在しないスーパーフレックス、自転車通勤制度の拡充、サテライトオフィスの拡大やオンライン入社式の実施などにも取り組みました。2021年には、就業時間内に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を受ける社員を対象に特別有給休暇制度を導入しました。

“withコロナ”への主な取り組み

- テレワークの推進
- サテライトオフィスの拡大
- 自転車通勤の推進
- 全社員へのスマートフォン配布などITツールの拡充
- 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種への特別有給休暇

● 社員向けメッセージの定期発信

社内イントラネットやコミュニケーションツール“Yammer”を活用し、社員に向けた新型コロナウイルス感染症関連の案内やQ&Aページの開設、“withコロナ”に対応した働き方に関するマネジメントからのメッセージなど、コロナ禍においても社員同士の存在を身近に感じられるように、それぞれの業務や想いのバトンをつなぐ「メッセージリレー」を行っています。地域や部門を超えた仲間のリアクションがお互いの励みになっています。

メッセージリレー

2020年7月20日
「どんなときもお客さまに寄り添う活動を。Together!」

REBORN

広島工場
災害からの復興

2018年7月に西日本豪雨災害で甚大な被害を受けたCCBJI本郷工場（広島県三原市）は、
2020年6月、同市内に移転し「新・広島工場」として生まれ変わりました。
同年10月には工場見学施設も完成。広島工場が社員のみならず、
地域のみなさまにとっても復興のシンボルとなるよう工場を通してこれまで以上に
地域の復興と発展に寄与し、安全・安心で価値ある製品をお届けします。

Hiroshima Plant History

2018年7月

本郷工場は西日本豪雨災害により2.5mもの高さの浸水に見舞われ、製造ラインと自動倉庫に甚大な被害を受けて稼動を停止しました。

2019年6月

迅速な復旧作業の後、本郷工場から4kmほどの地点に移転を決定。建設予定地で安全祈願祭を行い、本格的な建設に着工しました。

2020年6月

被災した本郷工場と比較して約1.5倍の生産能力を備え、中国・四国エリアにおける製品供給の中核を担う工場として生まれ変わりました。

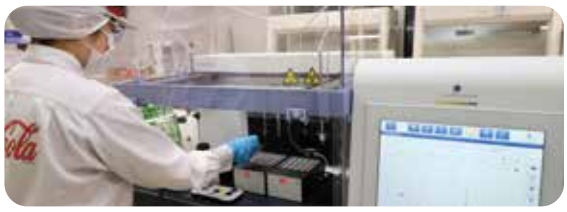
2020年10月

竣工式では、広島県湯﨑知事、三原市岡田市長をはじめとした関係者のみなさまへ当社代表取締役社長カリン・ドラガンから感謝の想いを伝えました。

新・広島工場は「世界中から人の集まる 先進的かつ魅力的な工場を目指す」をコンセプトに、単に工場を復旧させるのではなく、地球環境や品質、労働環境、社員育成や地域の貢献に至るまで、世界に誇れる工場としての復興を目指しました。

1 高品質の製品を生産する工程管理

安定した品質基準を維持するために、自動検査機による品質管理検査を実施しています。最新設備によるプロセス管理が、高い基準に沿って確実に実施されていることを、自動検査機で確認することで、効率的に高品質な製品を生産することが可能になりました。



2 世界基準の労働安全環境

国内の基準よりもさらに厳しいコカ・コーラ独自の世界共通マネジメントシステム「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」によるオペレーション管理を行っています。また、安全リスクに基づいた設備設計と作業環境を構築し、安全な職場環境づくりに取り組んでいます。

3 最新のIoT技術を導入

遠隔で設備の状態を監視するシステムを導入し、生産設備やユーティリティ設備の安定稼働に活用しています。原材料や資材の搬入から供給、ロット管理に至る工程を自動化し、帳票作成過程をデジタル化するなど徹底した省人・省エネルギー化を実現しました。

4 エネルギーの無駄排除と新技術による革新

これまで表計算ソフトで行っていた水やエネルギー使用量の算出・管理を自動化することにより、算出に費やしていた時間を削減しました。新技術を取り入れることで、省エネルギー化を実現するとともにタイムリーなデータの活用で改善活動の活性化も推進しています。

5 地域とのコミュニケーション拠点としての新たな役割

工場内には世界中の人々との交流拠点となる工場見学エリアを構えています。世界トップクラスの製造工程を「体感」する工場見学を目指し、さまざまなサプライズを用意しています。このような取り組みを通じて、広島の新たなシンボルとして地域活性化に向けて貢献します。

WORLD WITHOUT WASTE

「廃棄物ゼロ社会」を目指して

ザ コカ・コーラ カンパニーが、2018年に掲げたグローバルビジョン「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現を目指し、同年1月、日本のコカ・コーラシステムは「設計」「回収」「パートナー」の3本の柱から成る「容器の2030年ビジョン」を設定しました。2019年7月には、従来の目標達成の前倒しを含め、グローバル目標よりもさらに高い水準を目指す日本のコカ・コーラシステム独自の目標へ更新し、具体的な取り組みを進めています。

● 「容器の2030年ビジョン」3つの柱

日本のコカ・コーラシステムは、「ボトルtoボトル」の推進などを通じ、2030年までにすべてのPETボトルを100%サスティナブル素材に切り替えることなどを骨子とした「容器の2030年ビジョン」の実現に取り組んでいます。

設計	「ボトルtoボトル」を推進し、2022年までにリサイクルPET樹脂の使用率50%以上、2030年にはその比率を90%にまでに高め、新たな化石燃料を使用しないPET容器の完全導入を目指します。
回収	2030年までに、日本国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収することを目指します。
パートナー	政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通して、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持に取り組みます。

設計

「ボトルtoボトル」の推進

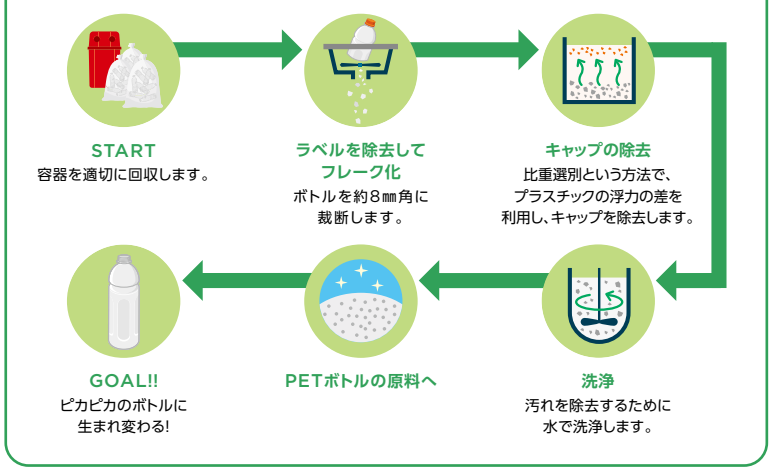
第21回 グリーン購入大賞 大賞受賞 GPN Green Purchasing Network

日本のコカ・コーラシステムが、「容器の2030年ビジョン」に基づいて推進している「ボトルtoボトル」※は、目標に向けて着実に進捗しています。2020年、「い・ろ・は・す 天然水 100%リサイクルペットボトル」「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」に100%リサイクルPETボトルを採用した結果、循環型社会への貢献が評価され、第21回グリーン購入大賞 プラスチック資源循環特別部門 大賞を受賞しました。また、2021年2月より、リサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴを順次導入するなど、プラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動にも取り組んでいます。2021年5月には、旗艦製品である「コカ・コーラ」、「ジョージア ジャパン クラフトマン」にも100%リサイクルPETボトルを採用しました。

※使用済みPETボトルを回収し、新たにPETボトルとして再生する取り組み

ボトルtoボトル
リサイクルPET樹脂
使用率
28%
（前年比7ポイント増）

ボトルがボトルになるまで



※一般的なペットボトルから100%リサイクルペット素材に切り替えた場合。

設計

容器の軽量化による PET樹脂使用量の削減

1996年、日本のコカ・コーラシステムの水製品用小型PETボトル（500ml）の重さは32gでした。2009年に発売された「い・ろ・は・す 天然水」では当時国内最軽量※となる約12gまで軽量化を実現。今後も飲料容器としての性能を保ちながら、PET樹脂使用量の削減を目指していきます。

32g（1996年） 容器の軽量化 → 12g（2009年）

-20g（-63%）

※2009年3月時点。
国内製造品500mlPETボトル対象。
日本コカ・コーラ調べ

回収　パートナー

セブン&アイ・ホールディングスとの完全循環型リサイクルの実現

2019年6月から販売している株式会社セブン&アイ・ホールディングスと日本コカ・コーラによる共同企画商品「一（はじめ）緑茶」シリーズは、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みPETボトルをリサイクルしたPET樹脂のみを100%使用した「完全循環型PETボトル」を採用しています。完全循環型ペットボトルへの切り替えにより、CO_2排出量を削減することを実現しました。

100% 再生PET樹脂使用ボトル Recycled plastic bottle

プラットフォーム

「多様性の尊重」への取り組み

“私たちの取り組み”

- インクルーシブな職場環境を実現した先進的な事例を提示する
- 多様な人財を育成し、地域社会のニーズに応え続ける

多様性の尊重

- ジェンダー
- 年齢／世代
- 障がい者支援
- LGBTQ

CSV Goals進捗

2025年までに女性管理職比率6%と掲げていた目標を2021年1月に前倒しで達成し、2030年までに20%という新たな目標を掲げました。すべての社員が自律的で輝けるキャリア形成ができる企業文化を醸成するために、環境やサポート体制の整備など、積極的に取り組みを推進しています。

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み

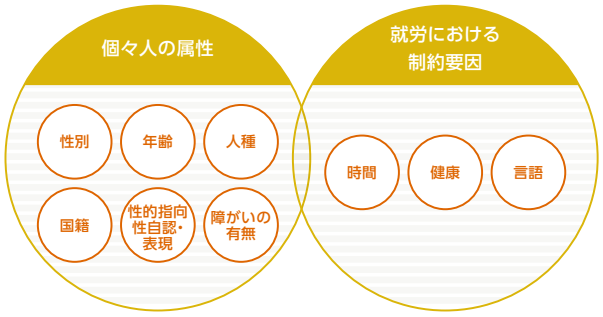
CCBJHグループは、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進を、経営戦略における優先事項のひとつと位置付けています。環境やお客さま、消費者の多様なニーズに対応し、グループが持続的に成長していくために、多様性のある職場環境をつくり、さまざまなバックグラウンドや価値観を持つ社員一人ひとりが学ぶ向上心を忘れず能力を発揮する職場環境を構築しています。

また、マネジメント体制も、国籍や性別、年齢や経歴など多様性をふまえて取締役を起用し、多様な角度から課題を捉えて議論し、意思決定を行うことで、さらなるダイバーシティ経営の実現を目指しています。

ダイバーシティ&インクルージョン中長期ビジョン

社員一人ひとりの多様性を尊重することで、性別、年齢、障がいの有無、人種、国籍、性的指向、性自認または表現などの属性、また就労におけるさまざまな制約要因にかかわらず、すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供していきます。

個々人の属性や就労における制約要因にかかわらず
すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供



CHECK!
「多様性の尊重」への取り組み
https://www.ccbji.co.jp/csv/inclusion/

ジェンダー

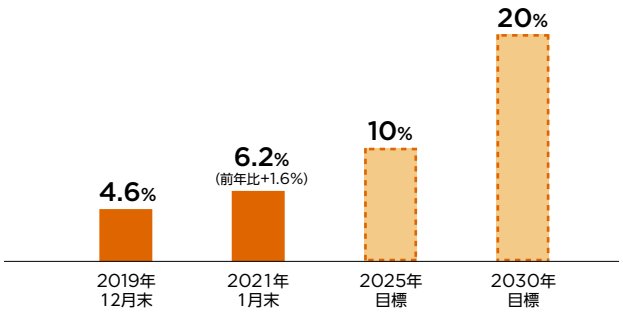
女性活躍推進の取り組み

● 女性管理職比率の目標を20%へ更新

CCBJHグループは、社員一人ひとりの個性を尊重し、多様な価値観やアイデアを積極的に取り入れ革新を生み出し続けるために、女性活躍の推進に取り組んでいます。産休・育休によるブランクや時間的制約など、本人の意欲や能力とは関係ない要因により、復職や昇進を諦める女性社員が多数いる自社の現状を省み、性別を問わず全ての社員が、仕事と子育て・介護を両立できる環境、自律的なキャリア形成を考えることができる企業文化の醸成を目指しています。

管理職における女性比率の向上につながるよう、成果をあげて昇進という選択肢を積極的に選ぶ女性社員が増える環境・サポート体制を推進しています。「2025年までに女性管理職比率6%」と掲げていた目標を2021年1月に前倒しで達成しました。更なる進化を目指して、2025年に10%、2030年には20%に引き上げるという新たな目標を設定しています。

女性管理職比率



LGBTQ

LGBTQへの平等な機会を提供するために社内規定を改定

CCBJHグループは、D&I推進の取り組みとして、多様な社員、社内の性的マイノリティ(LGBTQ)に対して平等な機会を提供するために、2020年1月より社内規程(就業規則など)における配偶者の定義を改定しました。これにより、パートナーの性別や婚姻関係の有無にかかわらず、育児休暇や介護休暇などの福利厚生制度を利用できるようになりました。また、人権ポリシーおよびダイバーシティ&インクルージョンポリシーの記載に性的指向に加え、「性自認または表現」を追加しました。全社員を対象としたe-ラーニングの研修を実施するなど、全社をあげて意識改革に取り組んでいます。

2020年12月には、婚姻の平等に賛同する企業を募るキャンペーン「Business for Marriage Equality (BME)」への賛同を表明しました。BMEは、日本国内における同性婚の法制化(婚姻の平等)に賛同する企業を可視化することを目的に運営されています。

Business for Marriage Equality

また、「work with Pride」が策定する評価指標の「PRIDE指標2019」において、LGBTQに関する当社の取り組みが評価され、初めての挑戦で最高位の「ゴールド」を受賞しています。

年齢／世代

次世代リーダー育成プログラム

CCBJIは、日本のコカ・コーラシステムを牽引し、変革へ導く人財育成のために、次世代リーダー育成プログラム「コカ・コーラ ユニバーシティジャパン(CCUJ)」を設立しました。ザ コカ・コーラ カンパニーと連携してグローバルのリーダーシッププログラムや海外研修を導入し、海外のボトラー社でも活躍できる人財の育成を目指しています。

また、英語力強化プログラム「GET(Global English Transformation)」では、海外からの知見を学ぶだけではなく、昇進につながる英語力開発もサポートしています。これらの取り組みを組織全体の活性化や成長につなげ、グローバルに活躍できる人財づくりを目指しています。

プラットフォーム

「地域社会」への取り組み

“私たちの取り組み”

- 私たちが暮らし、働く地域社会とのパートナーシップというかけがえのない財産を大切にし、多様なニーズや高い目標に応えていく
- 地域社会の潜在的な力を活かし、各プラットフォームの活動を推進する

地域社会

- 全国規模で行う2つのプラットフォーム（多様性の尊重、資源）で影響力を発揮
- 持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み

CSV Goals進捗

広島工場の見学施設が完成、えびの工場の緑化への取り組みが内閣総理大臣賞を受賞、またホッケー部が国内大会で三冠を達成するなど、活気ある地域づくりに力を入れています。さらに、地域との新たなコミュニケーションツールとなるバーチャル工場見学やオンラインセミナーを開始しました。

カンパニースポーツ

スポーツで地域を元気に

CCBJHグループは、「コカ·コーラレッドスパークス ラグビー部（男子）」と「コカ·コーラレッドスパークス ホッケー部（女子）」を運営しています。両チームは、試合を通じて地域のみなさまに感動をお届けするだけでなく、地域のイベントへも積極的に参加し、明るく活気ある地域づくりの一助を担っています。

「コカ·コーラレッドスパークス ラグビー部（男子）」は、トップチャレンジリーグに加盟し、福岡市を本拠地に活動しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により多くの試合やイベントが中止されたため、選手やコーチが自宅でできるエクササイズ動画を配信するなど、みなさまの健康を維持するために外出自粛による運動不足を解消する新しい取り組みを実施しました。

「コカ·コーラレッドスパークス ホッケー部（女子）」は、ホッケー日本リーグに加盟し、広島市を本拠地に活動しています。練習や試合が制限される中、国内3大大会※を制覇し、創部以来初となる年間タイトル完全制覇を達成しました。その功績が地域に元気を与えたとして、「広島県知事表彰」や「令和2年度広島市民賞」をはじめ、自治体や地域から数多くの賞を受賞しました。

※女子第42回全日本社会人ホッケー選手権大会、高円宮牌2020ホッケー日本リーグ、第81回女子全日本ホッケー選手権大会

自宅でできるエクササイズ動画を配信

※ラグビー部の活動は2021年末で終了します。これまで応援いただきましたすべてのみなさまへ感謝申し上げます。

創部以来初!年間タイトル完全制覇を達成

CHECK!

「地域社会」への取り組み
https://www.ccbji.co.jp/csv/community/

環境支援

えびの工場「令和2年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞」受賞

CCBJIえびの工場（宮崎県えびの市）が、緑化の推進について顕著な功績のあった個人・団体に授与される「令和2年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞」を受賞しました。

えびの工場は、南部九州エリアの重要な生産・物流拠点であるとともに、自然豊かな環境と調和した公園工場として、年間7万人以上の方々に工場見学を体験いただき、屋外の来場者を含めると15万人という多くのみなさまにお越しいただいています。また、工場の水源域において、えびの市や森林組合と協定を結び森林保全活動を実施し、水資源保護の推進も行っています。毎年4月に行われる「みどりの式典（内閣府主催）」における表彰式が、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となったため、2020年11月に宮崎県庁にて開催された表彰伝達式にて受賞しました。

課題解決支援

地域の課題解決を目指した 地域連携プログラム

CCBJHグループでは、宮城県、福島県、三重県、宮崎県において、地域行政や教育機関、市民団体など産官学民連携のもと、若者たちが主体のワークショップや活動発表、表彰制度などさまざまな事業を通し、地域課題の解決に取り組む活動を支援しています。

2018年からは、三重県、三重大学人文学部青木研究室、特定非営利活動法人Mブリッジと当社の産官学民連携のもと、三重県の幸せな未来を思い描きながら対話を通じて、魅力向上や課題解決のアイデアを考える ～私たちと社会が“しあわせ”でつながる～SDGsワークショップ ミエミライを開催しています。当社はこれからも、地域のみなさまが主体的に地域社会の課題解決に取り組めるよう、交流の機会と創造の場を提供していきます。

包括支援

地域課題への自治体との 協働の取り組み

CCBJHグループでは、地域課題解決を目指し、販売エリア内の自治体や団体と災害時救援物資供給の協定や観光振興協定を締結し、パートナーやステークホルダーとの連携を強化しています。また、飲料事業を通じて地域に価値を創出すべく、販売エリア内における地域支援自販機の設置を推進しています。

災害協定の締結

大規模災害に備えて、販売エリア内で災害協定を締結しています。これは、避難所などへの飲料水の優先的な供給や、特定の災害発生時に自動販売機内の製品を無料で提供するなど、緊急時に地域のみなさまの生活に欠かせない飲料水の確保を迅速にサポートすることを目的としています。2020年末時点、1,059の自治体や団体と協定を締結しています。

災害協定を締結している自治体・団体
1,059団体

観光振興協定の締結

千葉県、神奈川県、埼玉県、京都府などの自治体と観光振興や地域振興を目的とした観光振興協定を締結しています。本協定に基づき、地域ごとに特色あるデザインの「コカ・コーラ」スリムボトル 地域デザインを展開し、売上の一部を支援金として贈呈するなどの取り組みを進めています。

地域支援自販機の設置

販売エリア内の観光地や観光名所に独自のイラストを施した地域支援自販機の設置を推進しています。これらの支援自販機によるコカ・コーラ社製品の売上の一部がその地域の自治体やNPOなどに寄付され、地域活性やまちづくりなどの活動資金に充てられています。

プラットフォーム

「資源」への取り組み

“私たちの取り組み”

- 資源を持続可能な方法で利用するために継続的な改良・工夫をする
- 日本国内の環境保全に貢献する

資源
容器／PET
水
温室効果ガス排出量
再生可能エネルギー

CSV Goals進捗

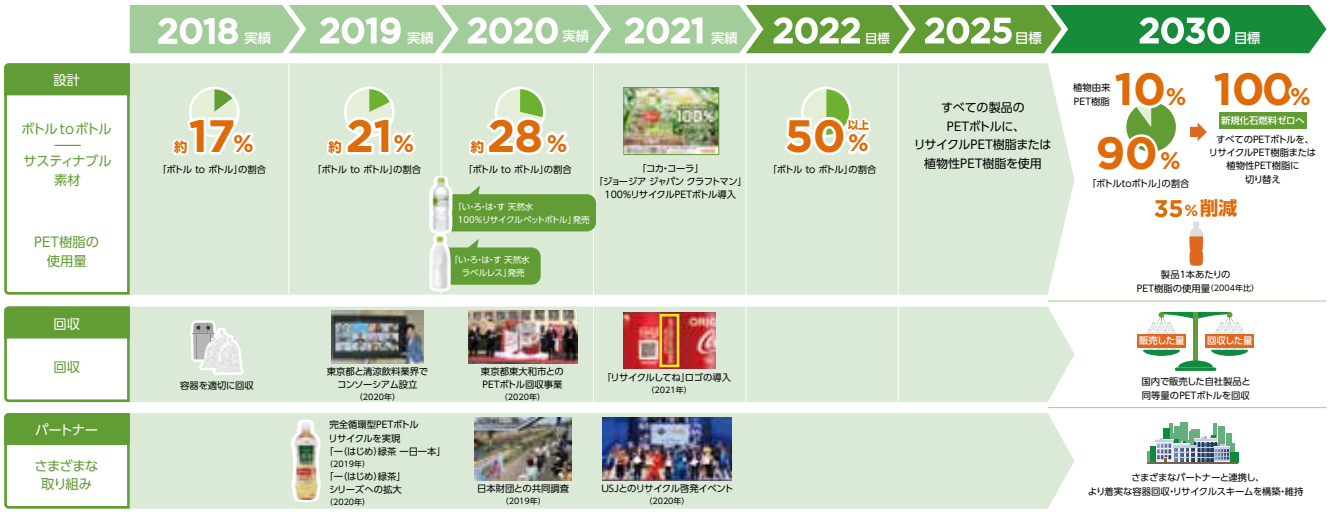
World Without Wasteは、日本のコカ・コーラシステムと連携した取り組みにより着実に進捗しています。地域の自治体や企業、飲料業界団体と協働し「ボトルtoボトル」資源循環に向けた事業やプロジェクトを実施しています。また、水源涵養率は工場の水源地域のみなさまと新たな協定締結や協力連携の継続によって、目標を上回る進捗を遂げています。

資源循環

World Without Waste 実現に向けた取り組み

日本のコカ・コーラシステムは、ザ コカ・コーラカンパニーが掲げるグローバルビジョン「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現に向け、「設計」「回収」「パートナー」の3つを柱とした取り組みを進めています。2025年までにすべてのPETボトル製品へのリサイクルPET樹脂などのサスティナブル素材の使用、2030年までに販売した自社製品と同等量のPETボトルの回収、パートナーとの協働による着実な容器回収・リサイクルスキームの構築など、日本のコカ・コーラシステム独自の目標「容器の2030年ビジョン」を設定し、活動を順調に進めています。

日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン（ロードマップ／実績）」 2021年3月更新



CHECK!
「資源」への取り組み
https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/

設計

ラベルレス製品の拡充

コカ・コーラシステムは、2020年8月より、「綾鷹」「爽健美茶」「カナダドライ ザ・タンサン・ストロング」のラベルレス製品の販売を、大手ネット通販チャネルにてオンライン限定で開始しました。環境にやさしく、分別の手間がかからないラベルレス製品の導入で、家庭内消費拡大へ対応し、環境負荷低減に貢献します。

回収

東京都東大和市とのPETボトル回収事業

2020年10月、CCBJIと東京都東大和市は、「地域活性化包括連携協定」を締結し、その一環として、協働によるPETボトル回収事業を開始しました。「PETボトル自動回収機」を市内に設置するなど連携を図りながら、使用済みPETボトルを回収・再生して新たなPETボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」の取り組みを推進しています。

回収

ウエルシアホールディングスとのリサイクル実証プロジェクト

2020年9月より、CCBJIとウエルシアホールディングス株式会社は、店頭回収したPETボトルを新たなPET原料としてリサイクルする「ボトルtoボトル」のリサイクルモデル構築を目的とし、ドラッグストア「ウエルシア」の栃木県小山市内11店舗に回収ボックスを設置した実証プロジェクトを開始しました。CCBJIは、分別されたPETボトルの収集から再原料化まで一連のリサイクル工程の設計・監修を担当し、一定の実施期間を経て、対象地域・店舗を拡大する予定です。

パートナー

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™とのリサイクル啓発イベント

2020年9月、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのオフィシャル・マーケティング・パートナーの日本コカ・コーラ、CCBJIは、大阪市の協力のもとパーク内にて、プラスチック循環型社会の推進に向けたリサイクル啓発イベントを開催しました。PETボトルから作られたオリジナルデザインのエコバッグを紹介しながら、リサイクル過程をエンターテイナーたちの歌や踊りで表現し、学びの機会を創出しました。

TM & © 2021 Sesame Workshop.
TM & © Universal Studios.
All rights reserved.

パートナー

飲料業界における協働の取り組み

私たちは、一般社団法人全国清涼飲料連合会が2018年に発表した、2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」に賛同し、業界との協働の取り組みを進めています。2020年、東京都と設立した「ボトルtoボトル東京プロジェクト」では消費者の分別に対する行動変革やリサイクルボックスへの異物混入防止の実証実験などを実施しています。

新デザイン・リサイクルボックス（下向き投入口式）

TOPICS

遠東新世紀（台湾）との再生PET原料に関する共同プロジェクトを実施

2020年7月、CCBJIは、世界有数の化学品メーカーである台湾の遠東新世紀株式会社と、ケミカルリサイクル※による再生PET原料を使用したPETボトルの製品化に向けた共同プロジェクトを開始しました。再生PET樹脂の原料の一部は、遠東新世紀が新たに開発したケミカルリサイクル手法により製造されます。CCBJI事業エリア内における試験販売を経て、数年後の商業化を視野に入れています。

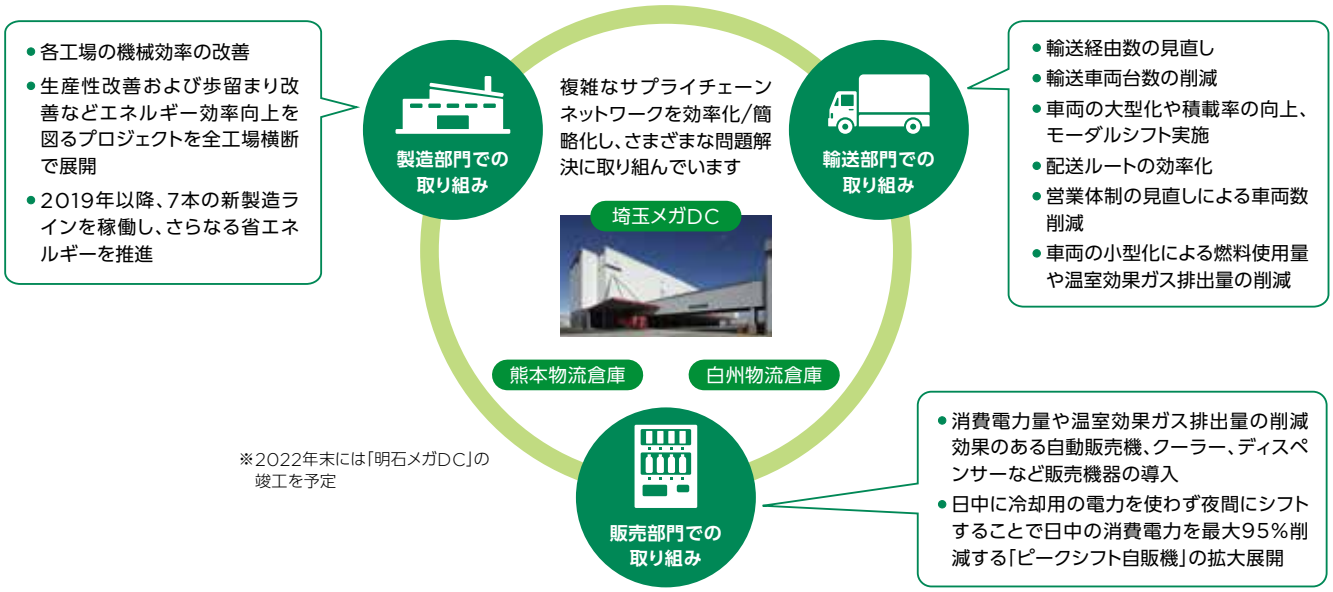
※使用済み資源を化学的な処理で原料に戻し、リサイクルすること

気候変動

気候変動への取り組み

2021年2月、CCBJIは日本のコカ・コーラシステム最大級の保管・出庫能力を持つ自動物流センター「埼玉メガDC」の稼働を開始しました。これまで拠点で行っていた仕分けなどの物流業務、在庫保管スペースを「埼玉メガDC」に集約し、製造からお得意さまや自動販売機などのエンド・ツー・エンドまでタイムリーに製品をお届けするネットワークを構築しています。

戦略的な物流ネットワーク改革を推進する「新生プロジェクトのSHINSEIネットワーク」では、メガDCを中心に白州や熊本など新たな大型物流倉庫の導入、ハブ倉庫やセールスセンターの統廃合により、複雑なサプライチェーンネットワークの効率化に取り組んでいます。CCBJHグループは、これらの取り組みによるサプライチェーンの最適化によって、環境負荷の軽減などサプライチェーンが抱えるさまざまな問題の解決に努めています。



- 各工場の機械効率の改善
- 生産性改善および歩留まり改善などエネルギー効率向上を図るプロジェクトを全工場横断で展開
- 2019年以降、7本の新製造ラインを稼働し、さらなる省エネルギーを推進

- 輸送経由数の見直し
- 輸送車両台数の削減
- 車両の大型化や積載率の向上、モーダルシフト実施
- 配送ルートの効率化
- 営業体制の見直しによる車両数削減
- 車両の小型化による燃料使用量や温室効果ガス排出量の削減

- 消費電力量や温室効果ガス排出量の削減効果のある自動販売機、クーラー、ディスペンサーなど販売機器の導入
- 日中に冷却用の電力を使わず夜間にシフトすることで日中の消費電力を最大95%削減する「ピークシフト自販機」の拡大展開

※2022年末には「明石メガDC」の竣工を予定

再生可能エネルギー

白州工場「ふるさと水力プラン」（再生可能エネルギー）の活用

白州工場では、2019年より山梨県と東京電力エナジーパートナー株式会社が共同で運営する電力供給ブランド やまなしパワーPlus「ふるさと水力プラン」との供給締結により、水力発電電力の使用を開始しています。これにより、電気の使用に伴うCO_2排出量をゼロにし、環境負荷低減に取り組んでいます。

SCM部門における改善への取り組み

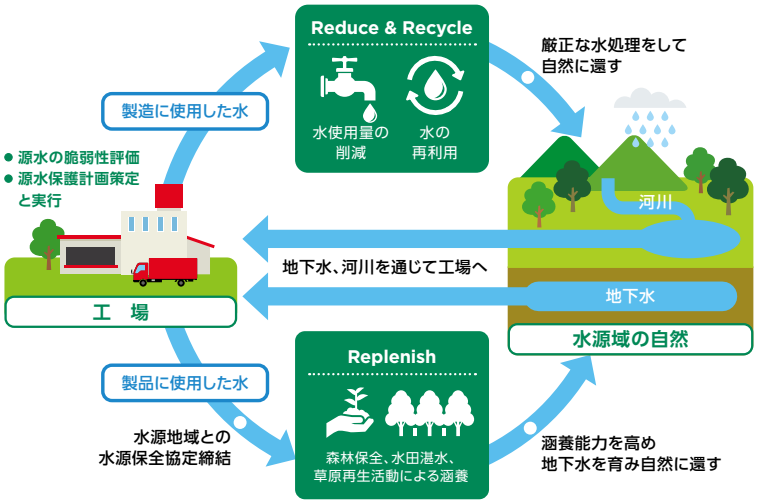
SCM本部では、人財育成と効果創出を目指し、職場の小さな改善から経営課題まで改善規模に応じて4段階にランク分けして課題解決に取り組む「OE認証制度」を展開しています。業務で気付いたことや改善アイデアを「I-card（改善提案）」として提出する活動が定着しており、昨年はSCM本部の社員99%が月1枚以上のI-cardを提出しました。I-cardの中で特に優れた提案は四半期ごとに表彰され、他の工場や部門に共有することでさらに改善の効果を高めています。2020年は、鳥栖工場の青沼孝俊による環境面とコスト面に貢献する「ボイラー運転見直しによるガス使用量削減」の提案がI-card「環境部門」の優秀賞を受賞しました。

青沼 孝俊（現 基山工場）

水 CCBJIの水への取り組み

日本のコカ・コーラシステムは、サスティナビリティーフレームワークにおいて、「水」に関する課題を取り組むべき優先事項のひとつと位置付けており、CCBJHグループでは独自の非財務目標「CSV Goals」で掲げた「2030年までに水使用量を30%削減(2015年比)」および「2025年まで水源涵養率200%維持」の達成を目指し、さまざまな取り組みを推進しています。

工場では、最新技術を備えた製造ラインの導入、モニタリングによる製造プロセスや工場設備の改善を日々行い、使用する水の量の削減や使用した水の再利用に取り組んでいます。また、工場で製品を製造する際に使用した水と同等量の水を自然に還元することを目的として、地域や自治体と協定を締結し、地域のみなさまとともに工場水源域が持続的に水を育み蓄える力「水源涵養力」を高める活動を推進しています。



製造に使用した水 12,560,322m³ (前年比−5.7%)	水源涵養面積 約7,963ha (前年差+350ha)
製品に使用した水 3,883,092kℓ (前年比−4.8%)	水源涵養率 364% (前年比+13%)
製品1ℓを製造する際に使用した水 (WUR:Water Use Ratio) 3.23ℓ/ℓ (前年差−0.03ℓ/ℓ)	水源保全協定締結 16/17工場 (前年+1工場)

水 工場水源域における水源保全を目的とした協定の締結

● 白州工場

山梨県と協定を締結

CCBJIと山梨県は、2020年7月に締結した「育水の推進等に関する連携協定」に基づき、山梨県の「育水」(健全な水循環の保全)の推進や情報発信を中心に、水・森林資源の保全と有効活用に関するさまざまな活動での連携を開始しました。さらに、白州工場の水源域である雨乞岳を頂上とする流川・加久保沢川流域の県有林の協定区域「コカ・コーラ ボトラーズジャパン水源の森 はくしゅう」(282ha)を主な活動エリアとし、森林管理の支援にも取り組んでいます。

● 埼玉／岩槻工場

日本製紙と協定を更新

CCBJI、日本製紙株式会社、丸沼高原リゾート株式会社の3社は、2020年12月、水源涵養力の確保を目的とした森林管理における相互連携に合意する協定を更新しました。CCBJIは埼玉工場と岩槻工場の水源地域の環境を維持するために、協定区域(1,746ha)において必要な管理作業(間伐や道路整備など)への支援を行うとともに、森林管理・保全への普及活動に協働して取り組み、必要な助言や情報交換などを行うことで相互連携の強化を進めています。

CHECK! 製造工場別の水源涵養率
https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/

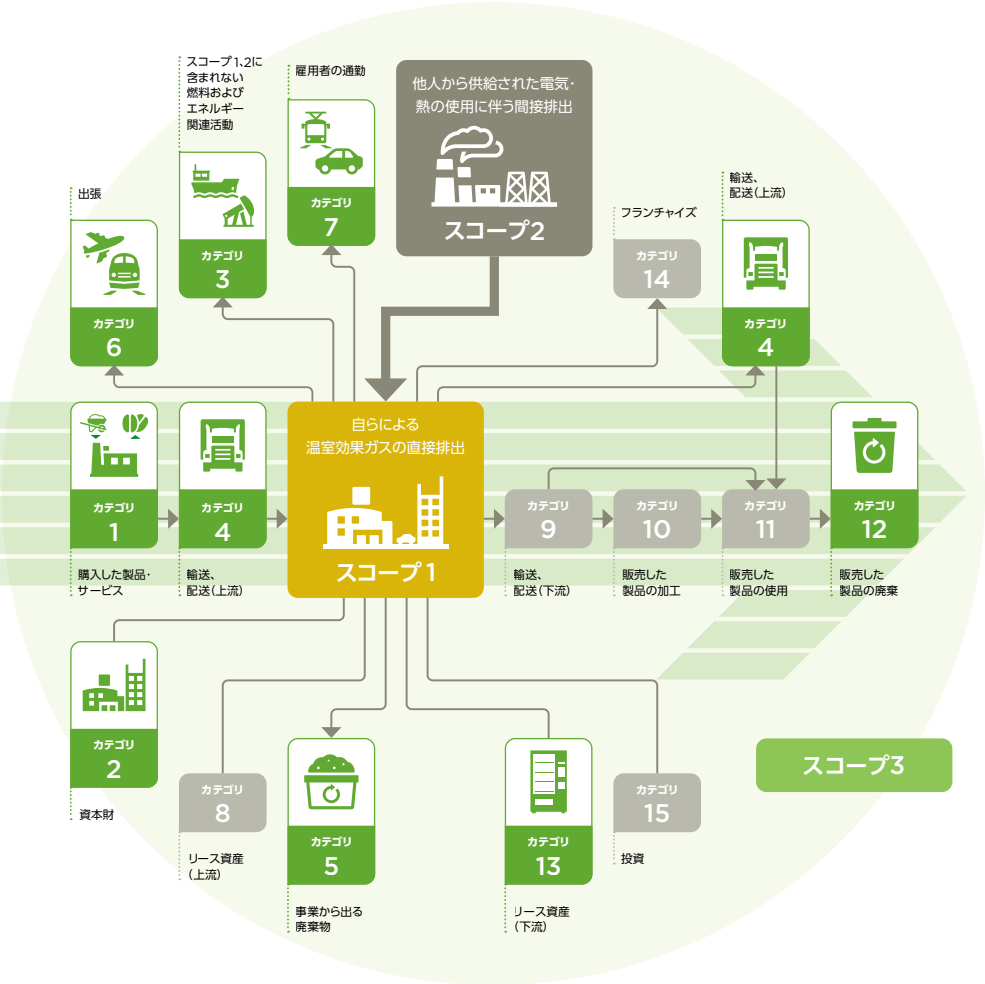
CHECK! コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト活動紹介動画
https://www.ccbji.co.jp/csv/community/

CO_2排出実績および算定方法

事業活動を行うにあたり、気候変動の緩和を考慮することは非常に重要な課題です。二酸化炭素(CO_2)に代表される温室効果ガス排出量を「見える化」することによって、多くのステークホルダーとともに、温室効果ガスの排出実態および対策情報などを把握・共有し、削減につなげるコミュニケーション手段としていきます。

※ 出典：環境省・みずほ情報総研「サプライチェーン排出量の算定と削減に向けて」
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_all_20210319.pdf

CCBJHグループに関わるスコープ1、2、3の排出源



算定プロセス

	集計範囲	算定方法
製造	CCBJIグループの製造工場(全17工場)、ならびにキューサイグループの福岡こうのみなと工場、キューサイファーム島根	・総エネルギー使用量(GJ):(エネルギー種別使用量×熱量換算係数※)の合計 ・温室効果ガス(CO_2)排出量(千t-CO_2):(エネルギー種別使用量×CO_2排出係数※)の合計
物流	CCBJIグループの製造工場(全17工場)から市場(お得意先店舗や自動販売機など)までにおける当社グループのビジネスに関連する物流、ならびにキューサイグループの上記工場から市場(お得意先店舗や自動販売機など)までにおけるキューサイグループのビジネスに関連する物流。これらには外部委託の輸送を含む。	・総エネルギー使用量(GJ):(エネルギー種別使用量×熱量換算係数※)の合計 ・温室効果ガス(CO_2)排出量(千t-CO_2):(エネルギー種別使用量×CO_2排出係数※)の合計
オフィス	当社ビジネスを運営する建屋(本社、セールスセンター、物流センター、および工場敷地内に設置されている関連施設など)	・総エネルギー使用量(GJ):(エネルギー種別使用量×熱量換算係数※)の合計 ・温室効果ガス(CO_2)排出量(千t-CO_2):(エネルギー種別使用量×CO_2排出係数※)の合計
販売	当社販売エリアで稼働する飲料自動販売機	・総エネルギー使用量(GJ):自動販売機の年間消費電力量×熱量換算係数※ ・温室効果ガス(CO_2)排出量(千t-CO_2):自動販売機の年間消費電力量×CO_2排出係数※

※係数の出典
電気以外の燃料の熱量換算係数およびCO_2排出係数は、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.7)」(環境省・経済産業省(2021年1月))より引用
電気の熱量換算係数は、「エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則(2020年3月31日改正)」が規定する「昼間買電」の9.97MJ/kWhを適用
CO_2排出係数は「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)－令和元年度実績－R3.1.7環境省・経済産業省公表」の代替値0.470kg-CO_2/kWhを使用

「CO_2排出実績(2020年)」には、2021年2月1日付で全株式を譲渡したキューサイ株式会社及びキューサイグループ各社の実績が含まれています。

CO_2排出実績（2020年）および算定方法

スコープ		排出実績（t-CO_2）			算定方法	
		CCBJIグループ	キューサイグループ	CCBJHグループ（合計）	活動量	原単位
スコープ1	自らによる温室効果ガスの直接排出	187,599	731	**188,330**	オフィスやセールスセンター、工場、物流などの燃料使用量	出典:「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver4.7）」（環境省・経済産業省（2021年1月））
スコープ2	他人から供給された電気・熱の使用に伴う間接排出	175,289	2,181	**177,470**	オフィスやセールスセンター、工場などの電気の使用量	「電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）－令和元年度実績－R3.1.7環境省・経済産業省公表」の代替値0.470kg-CO_2/kWhを採用

スコープ	カテゴリ		排出実績（t-CO_2）			算定方法	
			CCBJIグループ	キューサイグループ	CCBJHグループ（合計）	活動量	原単位
スコープ3	1	購入した製品・サービス	965,724	7,460	**973,184**	原材料・資材の調達量（重量ベース）	ザ コカ・コーラ カンパニーによるEmissions Factorsに基づく
	2	資本財	204,425	394	**204,820**	固定資産額（有形・無形）の当年度新規取得額	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）に記載された資本財の価格あたり排出原単位
	3	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	65,271	431	**65,702**	燃料・電気・熱の使用量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）に記載された燃料調達時の排出原単位
	4	輸送、配送（上流）	97,491	1,552	**99,043**	外部委託の輸送による燃料の使用量	出典:「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver4.7）」（環境省・経済産業省（2021年1月））
	5	事業から出る廃棄物	10,325	134	**10,459**	廃棄物処理・リサイクル委託費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）に記載された産業連関表ベースの排出原単位（廃棄物処理（産業））
	6	出張	2,166	154	**2,321**	社員の出張に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）に記載された交通費支給額あたり排出原単位に基づく
	7	雇用者の通勤	3,693	185	**3,878**	社員の通勤に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）に記載された交通費支給額あたり排出原単位に基づく
	8	リース資産（上流）	該当なし	該当なし	**該当なし**	該当なし	該当なし
	9	輸送、配送（下流）	該当なし	該当なし	**該当なし**	該当なし	該当なし
	10	販売した製品の加工	該当なし	該当なし	**該当なし**	該当なし	該当なし
	11	販売した製品の使用	該当なし	該当なし	**該当なし**	該当なし	該当なし
	12	販売した製品の廃棄	11,473	222	**11,695**	容器包装リサイクル法に基づき申請した容器包装のリサイクル重量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）に記載された廃棄物種類・処理法別排出原単位
	13	リース資産（下流）	352,151	0	**352,151**	販売機材（飲料自販機）の電力使用量	自動販売機1台当たりの年間電力使用量に当年度の稼働台数を乗じて算出。ただし、電気の排出係数は、一律0.470kg-CO_2/kWhを採用
	14	フランチャイズ	該当なし	該当なし	**該当なし**	該当なし	該当なし
	15	投資	該当なし	該当なし	**該当なし**	該当なし	該当なし
スコープ3 合計値			**1,712,720**	**10,532**	**1,723,252**		

グループ体制図（2021年2月1日現在）

コカ・コーラ ボトラーズジャパン ホールディングス株式会社

コカ・コーラ ボトラーズジャパン 株式会社

- コカ・コーラ カスタマー マーケティング株式会社
- コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング株式会社
- FVジャパン株式会社
- 株式会社カディアック
- コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネスサービス株式会社
- コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット株式会社

外部評価

- Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)
- CDP
- ISO-国際標準化機構
- 食品安全マネジメントシステム FSSC 22000
- 準なでしこ銘柄
- えるぼし
- くるみん
- 健康経営優良法人ホワイト500
- 新・ダイバーシティ経営企業100選
- SSON Impact Awards Asia
- 日経スマートワーク経営調査 4星
- 日経SDGs経営
- work with Pride
- スポーツエールカンパニー
- MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)
- 東京都女性活躍推進大賞

このほか、2019年度「東京都障害者雇用エクセレントカンパニー賞」産業労働局長賞を受賞。

※当社やグループ会社が取得したものです。

CSVレポートフルページPDF版

CHECK!

「CSVレポートフルページPDF版」は、当社ウェブサイトで紹介しています。

https://www.ccbji.co.jp/csv/doc.php

CSVレポート2021 アンケート

CHECK!

下記のURLまたはQRコードよりアクセスしてください。

https://form.ccbji.co.jp/form/csv2021

今後のCCBJHグループの取り組みや、CSVレポートの制作の参考にさせていただくため、アンケートを実施しています。みなさまのご感想やご意見などをお聞かせください。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

〒107-6211
東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー

お問い合わせ
ウェブサイトの「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
https://www.ccbj-holdings.com/inquiry/

©2021 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc. All Rights Reserved.